

京都市学校部活動及び 地域クラブ活動推進方針

～子どもを真ん中にしたウェルビーイングなまちの実現に向けて～

「子ども版」
も掲載しています



方針の詳細
はこちらから

01 理念・趣旨

本市では、全ての学校に学校運営協議会を設置しており、現在も地域と学校との協働活動を通じて子どもたちの健全な育成を図っています。また、生活の中に伝統と文化が息づき、伝統芸能をはじめとする多様な文化芸術に触れる機会がある「学藝があふれるまち」でもある本市の特性も活かしながら、地域の皆様のご協力もいただき、まち中にスポーツ・文化芸術があふれる子どもを真ん中にしたウェルビーイングなまちの実現を目指してまいります。

部活動を めぐる 背景

少子化による生徒や部活動数の減少※により、学校に生徒の希望する部がなかったり、団体種目では少人数のため実戦的な活動ができなくなったりするなど、さまざまな課題が全国的に生じています。また、学校部活動は教員の長時間勤務の大きな要因の1つともなっています。（※京都市では、約30年間で生徒数が4割減となっています。）

02 本市が目指す将来像の概念図

子どもたちの視点

- ✓ 新たなスポーツや文化芸術・STEAMとの出会い
- ✓ 楽しみたい子も、頑張りたい子も、極めたい子もマルチ志向の子にも
- ✓ 競技経験者や専門的な指導者の指導を受けられる
- ✓ 学校の枠を越えた新たな仲間
- ✓ 子ども達の選択肢を豊かに

指導者の視点

- ✓ 指導者としての活躍
- ✓ 指導力の向上

学校・教員の視点

- ✓ 兼職兼業制度で希望する教員は指導を継続
- ✓ 教員の負担軽減による学校教育活動の質的向上

地域クラブを実施する団体の視点

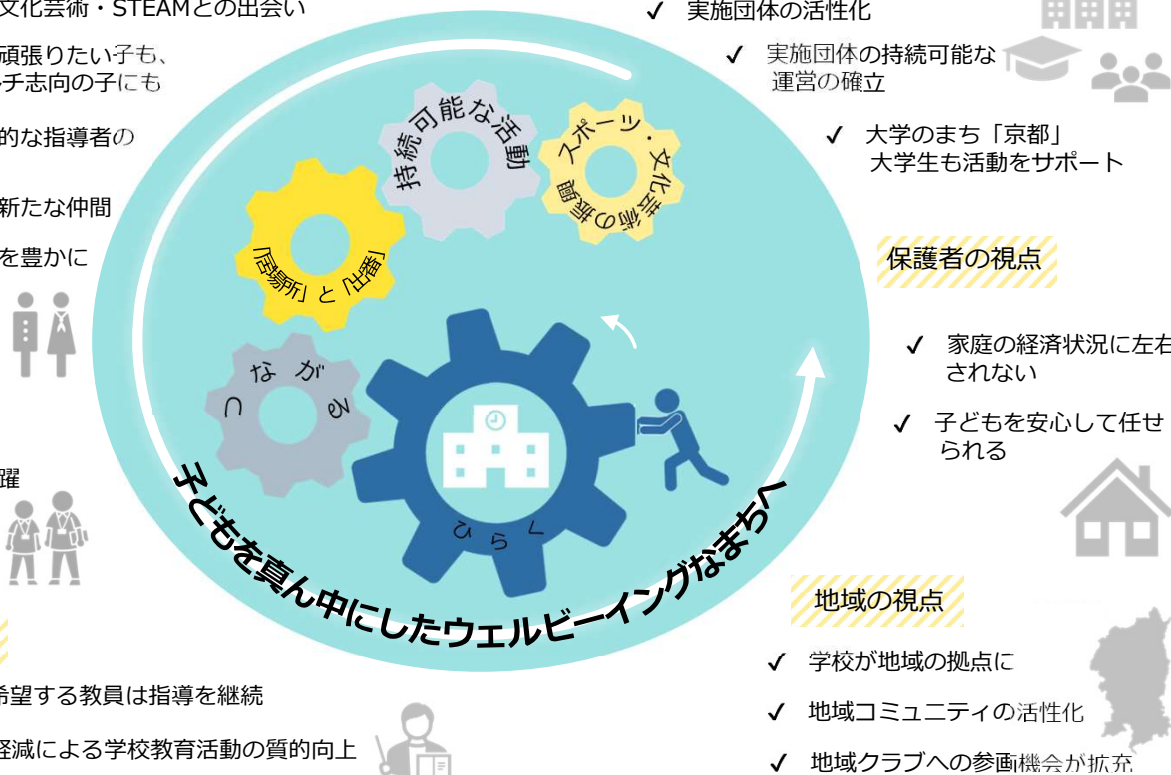
- ✓ 実施団体の活性化
- ✓ 実施団体の持続可能な運営の確立
- ✓ 大学のまち「京都」
大学生も活動をサポート

保護者の視点

- ✓ 家庭の経済状況に左右されない
- ✓ 子どもを安心して任せられる

地域の視点

- ✓ 学校が地域の拠点に
- ✓ 地域コミュニティの活性化
- ✓ 地域クラブへの参画機会が拡充



03 「京都版地域クラブ（仮称）」 「放課後活動」をはじめます

- 生徒が平日・休日問わず、将来に渡って多様なスポーツ・文化芸術・STEAM※等の活動の中から、○ それぞれの志向に応じて主体的に選択できる環境を目指して、これまでの京都市立中学校の部活動を廃止し、部活動の教育的意義を継承する「京都版地域クラブ（仮称）」を創設したうえで、各校で「放課後活動」も実施します。

学校部活動

京都版地域クラブ（仮称）
（学校管理外）

放課後活動
（学校管理内）

※STEAMとは

科学・技術・工学・芸術・数学の5つの英単語の頭文字を組み合わせた造語。科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、芸術・リベラルアーツ（Arts）、数学（Mathematics）の5つの領域を対象とした理数教育に創造性教育を加えた教育理念。知る（探究）とつくる（創造）のサイクルを生み出す、分野横断的な学びです。

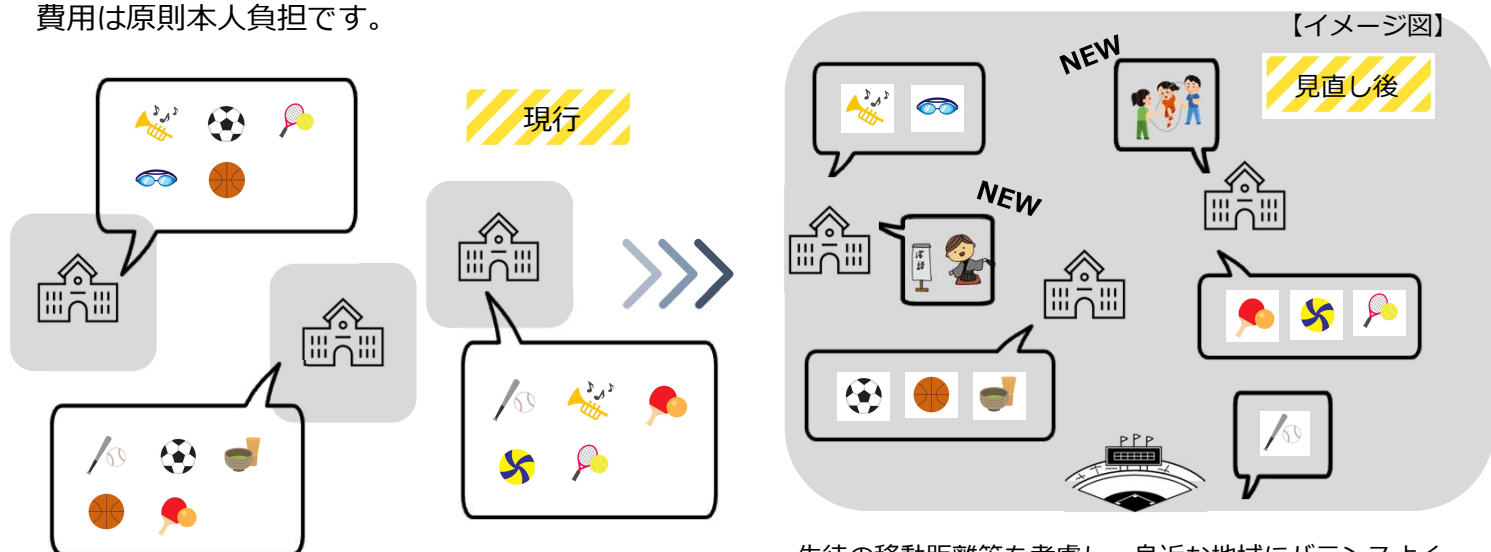
2025年度

今の小学校4年生が中学校1年生になる**2028年度**からのスタートを目指しています。

04 「京都版地域クラブ（仮称）」とは

現在の部活動のような学校単位での設置ではなく、生徒の移動距離等を考慮した身近な地域ごとに、バランス良く活動場所や活動内容を設定します（イメージ図参照）。

また、「京都版地域クラブ（仮称）」は学校管理外の活動のため、指導者は地域や民間団体の方、大学生等が担うことを想定しており、学校だけでなく地域全体で生徒たちの健全な育成に関わっていきます。費用は原則本人負担です。



・学校ごとに様々な部活動（種目）を実施します。

・生徒の移動距離等を考慮し、身近な地域にバランスよく様々なクラブ（種目）の活動場所を設置します。

※ 学校行事や地域行事との関連が深い吹奏楽部については、学校単位の「地域クラブ（管理外）」の設置も含め、今後検討。

・これまでになかった新しい活動も想定しています。

・活動場所は学校が基本ですが、学校以外の施設利用も想定しています。

05 「放課後活動」とは

生徒の放課後の選択肢をさらに広げるため、平日完全下校の時刻(17時)まで、市立中学生に学校内での活動の場を確保します。「放課後活動」は学校管理内で実施しますが、活動内容は生徒が学校とともに主体的に考えて取り組むことが基本となります。費用負担は原則ありません。

Point

- 01 生徒が仲間と共に自分たちで取組を企画したり、時期に応じて活動内容を変えたりすることを想定しています

Point

- 02 教職員は従来の学校部活動の顧問のような指導者ではなく、安全面等での指導、生徒からの相談等、教育的な面から必要に応じて支援します

06 学校部活動・「京都版地域クラブ（仮称）」・「放課後活動」の概要

	これまで	新しい姿	
	学校部活動	京都版地域クラブ（仮称）	放課後活動
実施主体	学校・生徒	地域・民間の団体	学校・生徒
指導者	教員	地域・民間の指導者 （教職員の兼職兼業も想定）	教職員（支援） 外部人材
対象者	在籍校生徒	市立中学生、他	在籍校生徒
活動場所	在籍校	市立中学校、他	在籍校
費用負担	原則不要	原則本人負担	原則不要

07 「京都版地域クラブ（仮称）」でできるようになること

Point 01 選択肢が広がります

- ✓ 在籍校以外の活動も選択できます
- ✓ 現在の部活動にない、新たな種目・活動もできます
- ✓ いろんな活動を広く体験できるようになります
- ✓ 競技力向上を目的としたクラブだけではなく、友達と楽しく活動できるクラブも選択できます

Point 02 実戦的な活動ができます

- ✓ 学校の枠を越えて仲間たちと活動します
- ✓ 試合形式など実戦的な活動が可能になります

Point 03 中学生以外の多世代での活動が可能になります

- ✓ 中学生以外の多世代での活動も可能になります

Point 04 競技経験者や専門的な指導者から教えてもらえます

- ✓ 競技経験者や専門的な指導者から教えてもらえます

※指導者の適切な指導方法、生徒との関りに必要な研修等を実施します

08 今後の諸課題について

課題への具体的な対応の方向性を盛り込んだ実施計画は、2025年度中を目途に策定します。

○ 「京都版地域クラブ（仮称）」についての検討事項

- 実施主体の確保（既存のクラブチーム、大学、民間企業等との連携など）
- 指導者の確保、相談窓口の創設、研修制度の検討
- 教員の兼職兼業制度の検討（「京都版地域クラブ（仮称）」への参画）
- 設置する種目や場所の検討
- 生徒の多様な志向に応じた活動の整備
- 「京都版地域クラブ（仮称）」としてのガイドライン等の策定（休業日の設定等）
- 学校施設活用に向けたガイドライン等の検討
- 生徒の移動手段の検討
- 参加費をはじめ費用負担のあり方の検討
- 大会の在り方について関係者と検討
- 学校部活動が担ってきた教育的意義を継承する制度設計の検討

○ 「放課後活動」についての検討事項

- 円滑な実施に向けた共通理解と活動内容・日数等についての検討
- 外部人材活用についての検討

09 今後のスケジュール

2027年度までは現行の部活動を維持しつつ、
2028年度から「京都版地域クラブ（仮称）」の創設及び「放課後活動」の実施を目指します。

2025～2027年度

準備・実証期間

2028～2031年度

移行期間

部活動

現行の部活動を基本的には維持しながら活動します

実施計画

新たな仕組みについて
具体的な実施計画の策定
を進めます

活動場所

現在学校単位で設置している部活動を、生徒の移動距離等を考慮し、「京都版地域クラブ（仮称）」として新たに設置するため、具体的な場所についての検討を進めます
※種目によって活動場所の考え方は柔軟に対応します（全市、行政区、学校単位）

団体募集

- ・地域・民間団体に対して、「京都版地域クラブ（仮称）」への参画を呼びかけます（登録制等を想定しており、参加は各団体の任意です）
- ・今までの部活動になかった活動等（ニュースポーツ、文化芸術）を担う団体の参画も歓迎します

指導者確保

指導者を希望される方を募集するなど、指導者確保の方策（人材バンク等）について検討し、準備を進めます

情報発信

子どもたちや保護者、想定される実施主体、市民等に対し、情報発信します

先行実施

可能なところから順次、「京都版地域クラブ（仮称）」を先行実施します

現行の部活動を廃止し、
2つの新たな仕組み

「京都版地域クラブ（仮称）」
の創設、

「放課後活動」
の実施を目指します